

第38号

発行 丸橋 歯科「良い歯の会」
発行所 群馬県高崎市栄町21-1
TEL 027-323-9524
FAX 027-322-3139
http://www.maruhashi.com/
E-mail:maruhashi.s@cb.wakwak.com

い の ち
医 ・ 農 ・ 智

授かりし 叡智
敬虔なる 感情
溢れ出る 正なる波動
整齊たる 生命活動
ホモサピエンス

ひしめき合う 個体
波動の 交錯
六十兆個に 襲い来る
荒れ狂う 分子
崩壊する 心と体

希望の かがやき
食 身体 バランス
いのちを 見つめる
あついで まなざし

(仁志)

「良い歯の会」機関紙

いのち

全人歯科の医療力の根源は何か

丸橋全人歯科 院長 歯学博士 辻本仁志

相次ぐ日本企業の不祥事から

神戸製鋼、日産、三菱自動車等日本一流企業の謝罪会見が相次いだ。戦後急成長を遂げ、世界が目撃する日本ブランドの信頼は大きく揺らいでいる。企業理念を高く掲げ、日本の団結力を生かし、厳しさに抗いながら、エネルギーを突出させてきた緊張感が途切れ、企業理念が形骸化しているように見える。正しい方向への厳しさが弛み、上昇志向が鈍化し、踊り場で現状を維持しようとするあまりモラルの低下を招いているのが現状であろう。つまり本質を見失っているのだ。

先日、ある一流企業から世界でも有数のアメリカの大学に留学していた方と話をしていると、最近では日本からアメリカに留学したいという若者が減っているそうである。二十年前くらい前は研究室で日本人を見るのが多かったが最近ではほとんど見かけないというのだ。ゼロからスタートし、爆発的なエネルギーで学び、上昇してきた日本社会が成熟期を迎え、退廃と甘さが蔓延しているように感じる。これは政治を含めあらゆる職種に見て取れる。欧米のように自分で考えて行動することに日本人は慣れていない。社会の整合性を保つため今こそ一人でも多くの人が丸橋先生の言う「自立した個人に立ち返れ」という言葉を強く意識するべきであろう。そうでなければ、もうすでにかなり後塵を拝する状況である日本は世界の中で後れを取り、現状の生活は夢幻と消えてゆくことになるであろう。

歯科医療の現状

先日、ある患者さんが当院にインプラント治療を受けるために来院した。前医ではCTを撮影し、ガイド手術を受ける説明をされたとのことであった。しかしながら、造骨治療

の説明は全くなかったという。信頼できるメーカーのインプラントを使用する予定であったようなので、前医の先生の言葉を信じて、私も造骨はいらないものと考えながら検査を進めた。結果は、驚くような状況であった。骨が薄く、とても造骨なしでは治療ができない状況なのだ。費用がかかり、上顎の歯をすべてインプラントにするという大きな範囲を治療することに加え、もしダメになった場合に患者さんの受ける苦痛を考えると、その治療が平気である心理が私には理解できない。現在のインプラントは骨に固定する力が強く、表面の性質も比較的炎症を起しにくいので、ガイド手術をフラスプレス(歯茎を切らない)で行えば骨がなくとも一時的には患者さんは楽でよく噛め、歯科医も簡単に治療を終えることができる。しかしながら、数年後には骨が溶け、患者さんが苦痛を受けることになる。

東京で相談会を行うと、大学病院と開業歯科医院との間をあちこち行き来させられながら、本当の状況はどうなっているのか、どう手を打てば良くなるのか、どこを受診しても解決策を見いだせないでさまよう患者さんが来場されることがよくある。歯科医同士がかばい合い、核心のところは説明を濁されるのだ。

先日、左上顎の大白歯が少し痛い」と歯科を受診したところ、左上下4本の大白歯の根管治療に至り、最後には大学病院で左上顎2本の大白歯を抜歯する予約を入れさせられ、お困りになって相談会場にいられた方がいた。診ると歯肉の腫れも歯周病もなく、根管治療の問題のようでもなく、痛くて咬めないという事でもなかったようだが、上下4本の大白歯は削ったままで仮歯も被せていない。左に大きく下顎がずれる状況である。現状がよくわからず抜歯になりそうだと訴えていた。

良い医療を受けるために一握りの

良心的な歯科医を探すのは至難の業である。歯科医が歯を軽んずる状況では我々の存在意義すらなくなる。自分で自分の首を絞めているようなものだ。誰のための医療か、誰のために施す技であるかを我々歯科医は強く自覚せねばならない。

そして、患者さんも自分の受ける医療についてある程度理解し、レントゲンなどの最低限の結果について説明を求め姿勢が必要である。そこに患者さんと医療者、お互いの緊張感が生まれ、医療が良くなってゆききつかけとなる。自分で判断し、行動する「自立した個人」になることである。



近医ではよくならず、遠方から当院に来院された患者さんの初診時。歯茎が腫れ、補綴物が割れている。患者さんはこうなった本当の理由と対処法が知りたい。

本質を貫く姿勢

丸橋全人歯科の医療がなぜ支持を受けるのか。それはヒポクラテスの説いた医療哲学に基づく医療姿勢にあると考えている。医療の一つ一つの細かな点での違いは、素人である患者さんが見ても実際のところはよくわからないかもしれない。しかしながら、目先の欲得にとらわれることなく、自分の持てる力を最大限に発揮して患者さんに技をなす姿勢は崩してはならない。百人患者さんがいれどんな状況であろうとも百人に同じレベルの治療を行わねばならない。自分の都合で手抜きをした患者さんが自分の家族であり両親であって良いのかを常に自問していかない。

ではならない。そして、治療結果が患者さんの自然治癒力を十分発揮できる状況への回帰を目標にしなければならぬ。この医療理念を背景にした治療姿勢が当院の医療力と信頼の源である。この点は常にスタッフに強く求めてゆかねばならない。



我々の治療姿勢は、紀元前450年頃に活躍したヒポクラテスの医療思想が基本となっている。

全人医療の根幹は技術と信念

実際には良い治療は患者さんが体でわかる。咬合を改善すれば姿勢がすぐに変わり、肩こりや頭痛が良くなる。先日、頭痛でロキソニンを三十年以上常用していた方が咬み合わせの改善で姿勢が修正され、ロキソニンが不要になった。患者さんにとっては何よりうれしい変化だ。そして、咬合治療により睡眠やホルモンバランスまで改善してゆく例もある。また、適合や形態の良い補綴物は舌や頬に異物感を生じず、装着しても何の違和感もない。ガイド手術では、動揺し外れたりして食べにくかった入れ歯が、手術当日から固定式の歯で咬めるようになるなど患者さんが劇的な変化を体感できる。そして、目に見えないが、基本となる根管治療は歯を長く持たせるために完璧に行われなければならない。これら技術の一つ一つが全人医療を支える大切な要素である。そして技術に終着点はなく、さらに向上を図ってゆかねばならない。技術を支える最新設備の導入も不可欠である。

精度の高い、正確な一つ一つの技術を駆使しながら、最終的には、患者さんが体や心のバランスを改善し、健康になってゆくことが全人医療の究極の目的である。単に詰め物や被せ物をする歯科医療ではなく、歯が健康に直結しているという事実が広まり、そこに視点を置いた医療が本流となっていくことを願ってやみません。

歯から身体と心の健康を総合的に診る 全人歯科治療の実際

安心して受けられる

インプラントの

最新治療

健康長寿時代に知っておきたい

自分の両親を診るようすべの患者さんに接してきました。その方法をわかりやすくご紹介しました。

インプラント15000超の治療実践、造骨手術5000超。噛める歯が蘇り、体と心の不調をも再建する自信の実績を写真、図解豊富にわかりやすく解説。CT、3Dプリンタを駆使した患者さんの負担を軽くする最新のガイド手術も掲載。治療の実例とともに、インプラントのあなたの疑問にもこたえる。



歯 悪い治療の見分け方

治してもすぐ再発する治療と、三十年経て感謝される治療の違いが一目瞭然!

新しい歯周病の治し方

歯周病が生活習慣病に分類された三十年前から筆者が確立し実践してきた根本療法。食生活が乱れたままでは歯周病は治らない

咬み合わせ不良の予防と治療

原因不明の頭痛・肩こり・腰痛は咬み合わせが原因だった。従来法と違う全人的咬合治療による調整で頭痛・肩こり・腰痛を解消、体と心が快調・健康になる。



観察力 確信を育てる 丸橋賢著

先入観のない謙虚な心で見つめる。わからないものはわからないまま見つけ続けられよ。少しずつほんやりと、そしていつかはつきりと真実は姿を現す。

みんなのための家庭の歯学

生え始めから、虫歯、歯周病治療、インプラント矯正、審美、ホワイトニングまでカラーでわかりやすく解説



# 信頼の治療のため、全力を傾けていくものごと

医療法人 社団耕生会 理事長 丸橋 賢

歯の治療は非常に難しい仕事です。昔、私が考えていたよりはるかに難しく、経験が積む程、難しさが身にしみます。小さな歯に何十キログラムの力が加わり、常に湿潤し、細菌、酸、砂糖などに曝されて、少しの弱点があればそこにつけ入られて破壊が進んでゆきます。しかもこの歯が、人間の体と心の支柱になつていて、身心の好調、不調を大きく左右してしまうのです。ミクロンの咬合の狂いが肩や首、背中のコリ、痛みを生み、頭痛、腰痛、精神の不調へと拡がってゆきます。

## 2

複数の歯科医によるチーム医療が「いのち」

一口に歯科と言っても、その中には矯正歯科、口腔外科、根管治療、補綴、咬合、小児、審美他多くの分野があります。一人の歯科医がその全てに精通し、十分な実力を持つなどということは不可能で、それぞれが専門です。一つの分野で名医と言われる力を持つ歯科医すら少ないのが現実なのです。



現状を見て、技工士に注意点を指示する

「二人で全てを行う開業医が、専門性の高い治療をすることは不可能」と言えます。矯正、インプラント、補綴、咬合などの治療後のトラブルが多く、根管治療のほとんど全てが再発している現実が、よくそれを物語っています。

## 4

安心の高性能設備

私の所では、九人の歯科医師によって得意分野を協力をチーム医療を確立し、その問題を克服しようと努力しています。

検査、治療、消毒、技工、手術室設備など、治療成績は設備の性能にかなり左右されます。その差を例に挙げると、最近当院のCTを更新しました。当時破格に高価だった日立製のものから、最新のドイツ製のものに変えて、その性能の進化に驚きました。顎関節の骨折も歯根や顎骨の状態も、内部の様子が立体的に精密写真を見ることができ、はっきり見え、確実な診断ができます。消毒滅菌も当院のものはタービン切削器の内部まで完全滅菌できます。普及している三十万円程度のものよりかなり高価ですが、成績がまるで違います。技工室で陶材を焼く窯も、デケマ(ドイツ製)のものは格段に強く、美しい仕上がりになりますが、通常のものに比べて三倍も高価です。補綴物一本でも、内容は違いますが、インプラントなどの外科手術も、空気まで汚染されている一般治療室で行くと、感染が増え、成績はさつと落ちます。清潔区域にして管理された手術室が不可欠なのです。

## 3

院内技工であること

歯科では補綴物や、いろいろな小さくて精密な装置を作らなければいけません。その制作をするのが歯科技工士です。

多くの歯科医院ではこの技工を外部の技工所に外注しています。これほどでもないことで、まず良質な補綴物が入ることはありません。不可能です。歯と補綴物の適合、咬み合わせなどの主要な点で、精密に仕上がらなければ、技工所では質より数を優先します。外見が良ければそれでよしとするのが文化になつてしまつていのが現実です。

例えばムシバの充填物を作る場合なども、簡単なケースが沢山あります。ムシバが歯頸部近くにある場合など、私は技工士を呼び、どこが歯と補綴物の接合部になるかなど実際に一緒に見て指示します。咬み合わせの注意点はもちろん指示しま

す。その指示に応えられる精神と技術を持つ技工士を養成するのはとても大変なことです。

「二人で全てを行う開業医が、専門性の高い治療をすることは不可能」と言えます。矯正、インプラント、補綴、咬合などの治療後のトラブルが多く、根管治療のほとんど全てが再発している現実が、よくそれを物語っています。

5つの条件のうち、1. 哲学と目標がしっかりとしていること。2. 複数の歯科医によるチーム医療ができること。3. 院内技工であること。4. 基本的には必須で、この一つでも欠けては、良い治療の実現は不可能だと確信しています。その上に、5. の設備、5. の理解が加われば、より確実に安全、そして生命力に溢れた結果が得られます。

# 全人歯科医療の中核をなす咬み合わせ

医療法人 社団耕生会 副理事長 亀井琢正

体を支える咬み合わせ  
歯の役割は咀嚼や、発音の手助けをしたりするだけではありません。歯で咬むことにより顎を安定させ、姿勢も安定させる効果があります。直立して歩行する人間は、重い頭を体の一番上に載せています。それは大変不安定な構造なので、頭につく下顎が振り子のようにバランスをとる役目も担っているのです。この振り子の役目もする下顎の位置を安定させるのが歯であり咬み合わせです。咬み合わせが悪いと下顎がずれるので、姿勢が悪くなるのはこのためです。この咬み合わせ不良が姿勢を乱すことで、肩や首が凝ったり、腰痛や股関節の違和感を感じたりするのです。一方、正しい咬み合わせは、頭の重心がぶれにくいため姿勢もよく、全身の問題も起きにくくします。そういった意味で、歯は全身を支える隠れた力柱なのです。

研究でも咬み合わせ不良のある方が多く、免疫をつかさどる白血球の成分比率に大きな偏りがあることが分かりました。咬み合わせ不良は、体の物理的な異常を起こすだけでなく、生理的な異常の原因にもなることがはつきりしました。これは大変意義のある発見だと考えています。

咬み合わせ不良は体にとって大変なストレスです。体の運動神経や感覚神経に関する脳の表面積のなかで、口やその周辺の占める割合は他を圧倒しています。それだけ支配領域の広い敏感な部分がいとも歪んでいると、脳に異常信号を送り続けている状態なのです。それを裏付ける結果が当院の研究で確認できました。それは、重度の咬合異常と精神状態を含めた全身の異常を訴える患者さんの脳について調べたところ、脳の一部分に委縮が見られました。そこは感情をつかさどる扁桃体と呼ばれる部分で、その部分の神経細胞の変化が疑われました。患者さん本人も、うつ症状がみられる方でした。そこで、咬合異常を改善する目的で治療をはじめたところ、徐々に精神状態の安定が見られたので、再度脳の同じ部位を調べたところ、委縮していた部分の改善が認められました。かつて、脳の神経細胞は再生しないと考えられていましたが、最近の研究では神経細胞の再生が確認されています。咬合異常によるストレスは相当地で、この患者さんのように神経細胞まで委縮させ、その後の咬み合わせ治療によりストレスが減少し改善したと考えられます。

咬み合わせ不良は、自律神経や免疫、精神状態にまで影響を及ぼします。私はこれまで、咬み合わせと全身の関係について研究し、多くの学会で発表してきました。当院では、咬み合わせに不具合がある方に全身状態の一つの目安となる自律神経を測定しています。自律神経は体の調子を整える大変重要な神経系です。咬み合わせ不良が著しい方は、神経が異常に興奮しており、治療中にお話しする中でもそういった状態と感ずることがあります。実際にそのような方の自律神経を測定すると、興奮時に働く交感神経が異常に高い値を示します。自律神経の乱れは免疫にも影響します。我々のこれまでの

咬み合わせ不良は体にとって大変なストレスです。体の運動神経や感覚神経に関する脳の表面積のなかで、口やその周辺の占める割合は他を圧倒しています。それだけ支配領域の広い敏感な部分がいとも歪んでいると、脳に異常信号を送り続けている状態なのです。それを裏付ける結果が当院の研究で確認できました。それは、重度の咬合異常と精神状態を含めた全身の異常を訴える患者さんの脳について調べたところ、脳の一部分に委縮が見られました。そこは感情をつかさどる扁桃体と呼ばれる部分で、その部分の神経細胞の変化が疑われました。患者さん本人も、うつ症状がみられる方でした。そこで、咬合異常を改善する目的で治療をはじめたところ、徐々に精神状態の安定が見られたので、再度脳の同じ部位を調べたところ、委縮していた部分の改善が認められました。かつて、脳の神経細胞は再生しないと考えられていましたが、最近の研究では神経細胞の再生が確認されています。咬合異常によるストレスは相当地で、この患者さんのように神経細胞まで委縮させ、その後の咬み合わせ治療によりストレスが減少し改善したと考えられます。

咬み合わせ不良により自律神経失調症のような、数々の不定愁訴を訴えることがよくあります。かつては、このような患者さんの多くは顎関節症として診断され、適切な治療を受けていませんでした。しかし、最近では咬み合わせと全身の関連が注目され、以前に比べ的外れな診断が少なくなつたと思えます。しかし、一方で異常のある咬み合わせを放置し、感覚を鈍らせる薬だけの対処であったり、またある歯科の学会では、偏った根拠による治療ガイドラインが公表されていたり、いまだ咬み合わせ治療に関する環境が整備されていません。このような、袋小路に陥りやすい咬み合わせの不良にならないためには予防と正確な早期治療が賢明です。予防は正しい食生活でよく噛むこと。そして適度な運動です。当院では、各分野に精通した歯科医師が最新の技術と全人歯科医療観のもと、お口の健康を通して全身を健康へと導く医療に徹しています。



院内に展示した野の花

心エネルギーを高めるため、院内に入った時から、野の花、音楽、笑顔、誠意で患者さんをお迎えしたいと願っています。

咬み合わせ不良は、自律神経や免疫、精神状態にまで影響を及ぼします。私はこれまで、咬み合わせと全身の関係について研究し、多くの学会で発表してきました。当院では、咬み合わせに不具合がある方に全身状態の一つの目安となる自律神経を測定しています。自律神経は体の調子を整える大変重要な神経系です。咬み合わせ不良が著しい方は、神経が異常に興奮しており、治療中にお話しする中でもそういった状態と感ずることがあります。実際にそのような方の自律神経を測定すると、興奮時に働く交感神経が異常に高い値を示します。自律神経の乱れは免疫にも影響します。我々のこれまでの

咬み合わせ不良により自律神経失調症のような、数々の不定愁訴を訴えることがよくあります。かつては、このような患者さんの多くは顎関節症として診断され、適切な治療を受けていませんでした。しかし、最近では咬み合わせと全身の関連が注目され、以前に比べの外れな診断が少なくなつたと思えます。しかし、一方で異常のある咬み合わせを放置し、感覚を鈍らせる薬だけの対処であったり、またある歯科の学会では、偏った根拠による治療ガイドラインが公表されていたり、いまだ咬み合わせ治療に関する環境が整備されていません。このような、袋小路に陥りやすい咬み合わせの不良にならないためには予防と正確な早期治療が賢明です。予防は正しい食生活でよく噛むこと。そして適度な運動です。当院では、各分野に精通した歯科医師が最新の技術と全人歯科医療観のもと、お口の健康を通して全身を健康へと導く医療に徹しています。



全身の姿勢も評価しながら治療を進める

# 咬み合わせと睡眠障害との関係について

咬合・審美担当医 理事 磯野 大輔

一般書籍などのメディアにて、咬み合わせの異常により頭痛、肩こり、腰痛、耳鳴り、めまい等の全身症状が生じることが取り上げられ、咬み合わせの異常と全身症状との関係が注目されるようになってきています。大学等の研究機関からの報告によると、健康者に高い咬み合わせの被せ物を被せた実験では、自律神経（心臓・呼吸・血圧などを調節しており、ヒトが生命活動を維持するために重要な制御している神経）のうち緊張状態時に活動が亢進する交感神経を活性化することが報告されています。また、脳波はリラックス時にα波が、緊張状態だとβ波が生じることが分かっています。健康者に、意図的に咬み合わせに異常を付与すると、優位にα波含有率が減少しβ波含有率が増大することが実験的に証明されています。よって、咬み合わせの異常は、緊張状態を強いられるといえるのです。緊張状態が持続していると、睡眠障害が生じやすくなると考えられ、睡眠時間の短縮は、生活習慣病や肥満と関連していると報告されており、大きな問題となっています。睡眠障害の原因について複数報告されていますが、その中の一つに咬み合わせの異常があげられ、当院でも咬合治療によって、よく眠れるようになったという患者様が多数あります。咬み合わせと睡眠障害との関係について、ヒトに実験的に咬合異常を付与すると睡眠時脳波が不安定になり睡眠が浅くなることや睡眠時に呼吸が一次的に止まり、その結果睡眠深度が浅くなる睡眠時無呼吸症候群の発生頻度が上昇することがわかっており、実験的な研究では、咬合異常は睡眠障害を引き起こすことが証明されており、臨床の場で咬み合わせの異常が原因で睡眠障害が生じたことを断定するにはまだ不明な点が多くあります。そこで、当院が過去10年間咬合治療を行った患者様のうち睡眠障害を訴えられた92名の方を睡眠障害の軽

減度がどのような条件で違っているのか精査致しました。その結果、被せ物などの治療部位が少ない、前歯の咬み合わせが正常である、精神科・心療内科からの処方薬が少ない患者様は有意に睡眠障害の症状が軽減していました。これは、もともと治療部位が多い方は、それだけ咬み合わせの位置が本来の位置より大きくずれている可能性が高いこと、また顎がずれた状態が長期間持続していることが考えられます。顎の骨も含めて全身の骨は、形態が変化しないと思われがちですが、破壊と再生を繰り返して変化し続けています。例えば右の咬み合わせが高い状態が持続すると右と比較して左の顎が短くなるのです。長期間、顎の位置がずれたままになっておくと、それに合わせて顎骨も変形してしまうので、咬合治療を行っても症状が中々軽快しにくいようです。咬み合わせの不調は、中枢神経系の情動（喜怒哀楽）を司る部位に大きく影響を与えることがわかっており、そこから長期間不快感情が持続することにより精神症状を悪化させてしまうことも、精神疾患から生じる睡眠障害もあり、精神科・心療内科からの処方薬を多く服用されている方は、予後が悪いようです。また、前歯の咬み合わせの状態についてですが、正常な咬み合わせの場合、奥歯は垂直的に咬み合わせられた時に咬合力を負担し、前後左右に顎を動かした時に、前歯が接触するように調整されています。このことにより、顎の前側方運動時に顎関節や臼歯部を保護しているのですが、前歯部の関係が異常だと、顎関節や臼歯部に侵害性刺激を加え続けることになり、不快感情が持続するため予後不良になりやすいのです。尚、今回の当院の研究内容は、日本全身咬合学会学術雑誌（二十三巻一号2017年）に掲載されており、興味のある方は参照して頂きたいと思

## 治療を受けた患者さんの声

### 歯の治療を通して生き方にも変化が

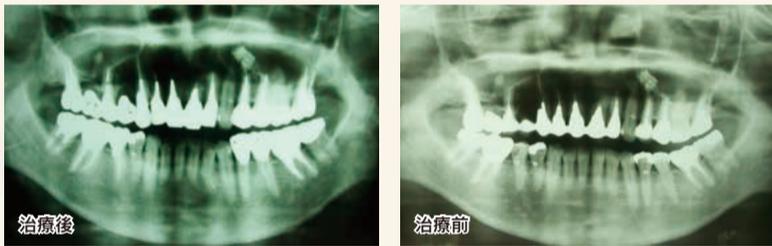
茨城県 谷島 雅子 (主婦 65歳)

私は、子供の頃より虫歯に悩まされてきました。高校生の頃、上顎前歯四本の治療に差し歯を勧められ、再植手術を受けました。失敗という経験もありました。それでも歯科医師まかせが続いていました。歯茎が紫色になり腫れたり出血したりもありました。そんな中、十二年前再婚した主人が、私の顔の歪みとすぐ寝込んでしまうこと、肩こりや頭痛のため常用していた鎮痛剤を気にしてお世話になっていた丸橋全人歯科に連れてきてくれました。

丸橋先生に診ていただき、根管治療がなっていないこと、噛み合わせ不良による歪みであること、そしてそれに伴う頭痛・肩こり・疲れであることの説明を受けました。治療をお願いすると、まず治療計画から始まりました。治療の流れや治療期間・費用等の説明を受け、私の希望も話し合いました。長い歯科通いの中で、初めての経験でした。堀金先生が、下顎六本を除くほとんどの歯の根管治療をやり直して下さいました。それはとても根気のいる作業に見えました。治療が終わって見せていただいた、治療前と後のレントゲン写真の違いに恐ろしささえ覚えました。と同時に、このようにきちんと治療されたことへの喜びも大きくありました。その後、亀井先生による咬合調整が始まりました。右ばかりで強く噛む癖があることに気づいていなかった私は、先生から両方の歯で

噛むようにと言われ練習しました。先生の治療からは、大変神経を使いました。その間に良い歯の会に参加する機会がありました。丸橋先生が、日本の歯科医師の多くが残念ながら不十分な治療をしている現状を話されました。それを聞き、なるほど良い先生に巡りあえなかつたわけだと納得しました。また、食の大切さについても学びました。通院中に丸橋先生の哲学的理念に触れ、生きる姿勢についても考える時となりました。年に一度、主人共々亀井先生に検診を受け安心を得ています。今では車中泊で日本一周の旅も出来る様になりました。これも、丸橋全人歯科の皆様と主人のお陰です。全人歯科の意味も実感でき感謝の日々です。

を解決しようと多くの歯科に通いましたが分かって頂けなかつたので治療する度に歯の状態が悪化していきました。噛み合わせだと思つてからは書店で先生の本に出会いました。遠方なので広島県内で治療を続けました。しかし咬み合わせの状態が限界に達したので最後の望みを持って通院致しました。最初に丸橋先生と堀口先生に診療をして頂きました。が症状は変わりませんでした。後日、薬にも縛られる思いで手紙をお出しすると堀口先生から御返答を頂くに頂き、また平成一一年の夏から治療を継続させて頂いて頂きました。担当が亀井先生に代わりスプリントを使用し、長い間、本当に辛抱強く治療して下さいましたが快方には至りませんでした。精神的にも病んでいたので以前に丸橋先生から脳の病気ですと言われ松澤先生を御紹介頂いていたので受診致しました。やはり先生の言われる通りの診断で驚きました。松澤先生にお会いした時、すぐに信頼でき病気を転換する機会となりました。転機が訪れたのは亀井先生に丸橋裕子先生を御紹介頂いてからです。数回目の矯正治療で、治して頂く事が可能ではないかと希望を持ちました。苦しい状態でしたので、もう普通の生活が出来ないと半分諦めておりましたし、これまでの生き方も満足するものではなかつたので惜しい気持ちで一杯でした。先生に治療して頂く度に奇跡が起るので神様のように思えました。治療を終えてから、前歯が気になつて来た原因は歯列不正によるものだと教えて頂きました。ですから今の時代に私の命を救い健康にまでして頂ける場所は日本中探しても丸橋全人歯科の技術力だけだったのだと思います。私を受け入れて下さり、人生の機会をもう一度与えて下さいます。先生方とスタッフの方の御厚意に深く感謝申し上げます。そして私も皆様に導いて頂いたように健康へと導いてくれる人へと変わっていきたく思います。最後にこのような環境を与えて下さり治療を受けさせてくれました両親と援助下さいました知人の方の御好意に厚く感謝致します。



治療前：咬み合わせの面が左右でかなり不揃いで根管治療も不十分。  
治療後：根管治療、咬み合わせを改善し、肩こり、腰痛等もよくなった。

### 私の太陽は丸橋全人歯科だけでした

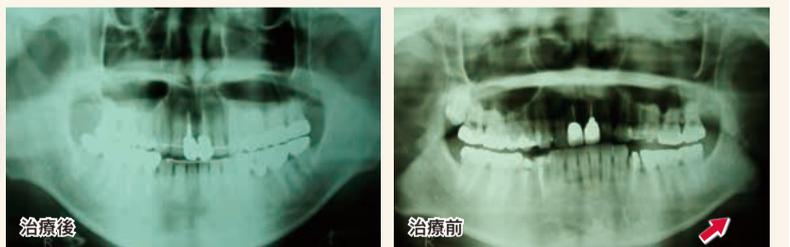
三原市 島村 亨 (介護職 41歳)

私は子供の頃から上顎前突で、中学生の時から前歯が非常に気になる。物事に集中出来ない事がよくありました。二十歳の頃からはその問題

を解決しようと多くの歯科に通いましたが分かって頂けなかつたので治療する度に歯の状態が悪化していきました。噛み合わせだと思つてからは書店で先生の本に出会いました。遠方なので広島県内で治療を続けました。しかし咬み合わせの状態が限界に達したので最後の望みを持って通院致しました。最初に丸橋先生と堀口先生に診療をして頂きました。が症状は変わりませんでした。後日、薬にも縛られる思いで手紙をお出しすると堀口先生から御返答を頂くに頂き、また平成一一年の夏から治療を継続させて頂いて頂きました。担当が亀井先生に代わりスプリントを使用し、長い間、本当に辛抱強く治療して下さいましたが快方には至りませんでした。精神的にも病んでいたので以前に丸橋先生から脳の病気ですと言われ松澤先生を御紹介頂いていたので受診致しました。やはり先生の言われる通りの診断で驚きました。松澤先生にお会いした時、すぐに信頼でき病気を転換する機会となりました。転機が訪れたのは亀井先生に丸橋裕子先生を御紹介頂いてからです。数回目の矯正治療で、治して頂く事が可能ではないかと希望を持ちました。苦しい状態でしたので、もう普通の生活が出来ないと半分諦めておりましたし、これまでの生き方も満足するものではなかつたので惜しい気持ちで一杯でした。先生に治療して頂く度に奇跡が起るので神様のように思えました。治療を終えてから、前歯が気になつて来た原因は歯列不正によるものだと教えて頂きました。ですから今の時代に私の命を救い健康にまでして頂ける場所は日本中探しても丸橋全人歯科の技術力だけだったのだと思います。私を受け入れて下さり、人生の機会をもう一度与えて下さいます。先生方とスタッフの方の御厚意に深く感謝申し上げます。そして私も皆様に導いて頂いたように健康へと導いてくれる人へと変わっていきたく思います。最後にこのような環境を与えて下さり治療を受けさせてくれました両親と援助下さいました知人の方の御好意に厚く感謝致します。

### 運命の出会い 明るい未来

埼玉県 匿名 (ミキブルーン代理店 65歳)



治療前：歯列が蛇行して下顎が大きく左下顎の歪みが改善している。  
治療後：歯並びが美しいラインで揃い、下顎の歪みが改善している。

子供の頃から歯へのコンプレックスがあり歯科通いは日常茶飯事。有ること近くの歯医者へ通院して治療をしてはいたものの差し歯ではもう無理と言われ抜歯へ。一本抜歯すると二本三本と進みブリッジから、それもまた部分入れ歯となり、この先どうなっていくんだろうと不安になりました。自分の歯が減つていき、部分入れ歯が徐々に大きくなつて、人と話す事の多い仕事をしていましたので、いつも相手の視線が気になっていました。そんな時に九州に住んでいる姉からインプラント治療をしている事、遠くからも飛行機で来てインプラント治療をしている人がいるから考えてみないかと言われましたが飛行機に乗ってまでとは……思い悩んでいた時信頼できる方からインプラント治療している事、前に違う歯科医でインプラント治療したが調子が悪く対応もあまり良くないので知人の紹介で高崎にある丸橋全人歯科に通つ



治療前：歯を失いだんだんと大きくなっていった入れ歯。初診時の状況。下顎は虫歯の前歯が残っていない。  
治療後：歯がそろい、人前でも自信が持てるようになった。長年続いた腰痛や足先のしびれも改善した。

# 歯科治療を不安なく受ける方法

咬合・麻酔担当医 鈴木 貴之

「皆さんは歯科治療を受けることは好きですか？」

ほとんどの方はこの質問に「嫌い」と答えると思います。名医の治療であっても、自分では見えないお口の中をいじられることは恐怖です。歯を削られることや、歯茎に麻酔を打たれることは痛みを伴うことがあります。大半の方はこれを我慢し、歯科治療を受けていますが、我慢できる許容範囲は人によって異なります。

近年は、「歯科恐怖症」の患者さんが増加傾向にあるように感じます。「歯科恐怖症」とは精神疾患の一種で、閉所恐怖症や先端恐怖症などと同じ分類に入ります。歯科治療に対する恐怖がとても強く、治療を受けることが難しい状態です。また、喉の奥に器具が入る時や、お口の型取りをするときに、嘔吐反射が出てつらい思いをされる方もいます。これらは、誰にでも起こりうる当たり前のことで、恥ずかしいことでも、我慢しなければならぬことでもありません。

このような歯科治療を受けることがつらい方も、リラックスして治療を受ける方法がありますので、当院で行っている三つを紹介します。一つは「笑気吸入鎮静法」という方法で、笑気という麻酔ガスを使用します。お口にマスクをあて、笑気を吸入すると、五分程度でふわふわした気分になり、リラックス効果を得られます。治療中の痛みや緊張が、つらいときや、軽度の嘔吐反射があるときに使用します。また、高血圧、狭心症、糖尿病などの全身疾患があり、ストレスで全身状態が変化しやすい方には、笑気を使うことにより、より安全に治療を受けてもらうことができます。副作用がほとんどありませんので、多くの症例に使用できる麻酔方法です。

二つ目は「静脈内鎮静法」という方法で、ミタゾラム（鎮静剤）を使用します。点滴をして薬を流すと、ぼんやりして人によっては浅く眠った状態で治療を受けることができます。インプラントや抜歯などの時間が長い処置や、恐怖や緊張が強く、笑気ガスでは効果がみられなかった方に有効です。

三つ目は「静脈麻酔法」という方法で、静脈内鎮静法と似ていますが、こちらはプロポフォールという麻酔薬を点滴で投与します。麻酔薬が入ると完全に眠ってしまったため、起きた時には治療がすべて終わっている状態となります。インプラントをたくさん植立する時間のかかる処置や、不安が強い方、極度の歯科恐怖症の方、歯科治療を断念している方が対象となります。静脈麻酔法は全身麻酔とは異なりますので、入院する必要がなく、その日のうちに帰宅できます。治療中は血圧や呼吸の状態を、麻酔担当の先生が看護師と一緒にしっかりと確認しながら行いますので、安心して治療を受けられます。

これら三つの方法は小児にも安全に使用できます。小児は歯科治療の経験がほとんどなく、見慣れない大人や器具に囲まれ、とても不安です。泣いている子供を押さえつけて治療すると、この体験がトラウマとなり、後々も治療が困難な、歯科恐怖症となる可能性があります。少しづつトレーニングを行い治療に耐性を付けていくことが一番ですが、その時間がないときや、年齢が低くトレーニング効果が得られない時などに、これらの麻酔は有効です。特にプロポフォールを使う静脈麻酔では、虫歯がたくさんできてしまい、一気に治療したい時におすすです。一度に治療できる本数が増えますから、来院回数も少なくて済みます。また、自閉症や脳性麻痺などの障害があり、通常の方法では満足に治療ができない方などにも、これらの麻酔方法は適応となります。

今まで我慢して歯科治療を受けていた方、治療が怖くて歯科医院から足が遠のいていた方、また現在予定されている治療を受けるのが怖い方等、是非ご相談ください。

# 体に優しい国内最新鋭のCT装置を導入

最新鋭のCT装置を導入しました。導入に際して、評価の高い数社のCTを比較検討した結果、本機種が現在国内で販売されているCTの中では画像の鮮明度、被爆量の最小化の点で最も優れている機種と判断されました。歯の診断、顎骨の骨折、上顎洞の炎症の有無、インプラント治療の骨量診断やガイド手術の設計等に様々なケースで患者さんの治療に大きく役立っています。(写真1)



写真1：最新鋭のCT撮影の様子。

当院では、ドイツ・シロナ社製の最新鋭CT装置を導入しました。導入に際して、評価の高い数社のCTを比較検討した結果、本機種が現在国内で販売されているCTの中では画像の鮮明度、被爆量の最小化の点で最も優れている機種と判断されました。歯の診断、顎骨の骨折、上顎洞の炎症の有無、インプラント治療の骨量診断やガイド手術の設計等に様々なケースで患者さんの治療に大きく役立っています。(写真1)

ことで患者さんへの体への負担をますます低減できます。このように画像範囲を絞るながら、より高画質に被ばく量を抑えられる機種は検討した機種ではこの機種以外にありません。歯の診断にも非常に有用で威力を発揮します。今までは歯の破折や複雑な根管も患者さんの体への負担を配慮して診断を選択する必要がありました。精密に歯を撮影するHDモードであっても撮影範囲を絞り、デンタルフィルム写真一枚分の被ばく量で撮影が可能です。2次元写真で診断するか、3次元的に精密な画像で診断するかで根管治療に必要な情報量は大きく変わってきます。また、手術後等の2次元的な診断にパノラマ写真も撮影が可能です。従来のフィルムの5分の1の被ばく量で、より鮮明な画像が撮影後30秒程度で確認でき、患者さんへの体への負担軽減とスムーズな診断を可能にしています。(写真2)

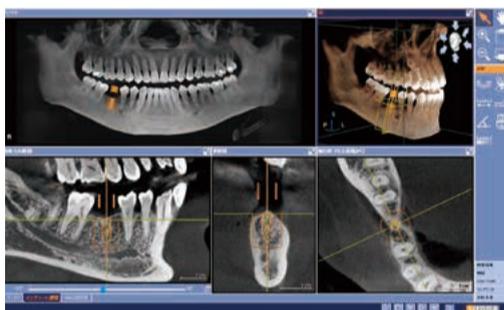


写真2：3次元的に鮮明な画像が低被爆で得られる。

画像は必要に応じて低線量(Low)、標準(SD)、高精細(HD)モードと画像精度の必要性に応じて3段階に切り替えが可能です。画質はHDモードが最も鮮明ですが、Lowモードで撮影された画像でも10年前のCT画像と遜色ないレベルで診断が可能です。サイナスリフト等の造骨手術前の上顎洞の診断には十分対応できます。そしてその場合、男性の撮影条件での被ばく量は、なんと歯を撮影する従来のデンタルフィルム一枚分より少なく済みます。被ばく量についても少し記載すると、男性の上下顎すべてが診断できるようにSDモード(通常最も多く撮影するモード)で撮影すると、従来のパノラマフィルム写真一枚分と同じ被ばく量で撮影・診断が可能です。精密な画像診断と患者さんの体に優しい治療を選択する上で、治療現場に一種のパラダイムシフトを起こしています。さらに、場合によっては撮影範囲を必要な範囲のみに2分の1、4分の1と絞ることも可能で、被爆量を2分の1、4分の1にする

シロナ社製のCTは今後拡張も可能なソフトウェアがあります。睡眠時無呼吸症の方の治療前後での気道の容積の変化を診断したり、顎運動を計測する機器と組み合わせることにより、治療前後の一人一人の下の顎骨や顎関節の動きを把握することができます。 (文責 辻本)

## 東京と高崎と 年に2回の無料相談会&特別講演

毎年、東京と高崎と、それぞれ無料相談会と特別講演を行っています。いつも多くの方々にご来場いただき、歯で悩んでいる方がこんなにもいるのだということを実感する機会です。

今年の東京相談会は5月27日に御茶ノ水のソラシティで催しました。高崎の当院にスタッフ全員、朝の5:50集合し、バスで東京に向かいます。皆さまが眠そうですが、現地まで約2時間の移動後、荷物の搬入から設営へと準備作業に入ると、経験のあるスタッフは自ら判断してどんどん動き、また今年初参加の人も指示を仰ぎながら積極的に仕事をこなしていき、開場1時間前にはいつも設営終了となります。

こうしたスタッフのイベントへの高い参加意欲と協力体制を礎として私たちの東京・高崎の相談会は毎年続けていくことが出来るのです。



各専門分野の先生たちによる講演会も毎年好評です。東京講演では4人の先生が講演しますが、事前に全員で集まり、試写会を行っています。話す内容や症例が重なっていないか、内容が一般の方にもわかりやすいか、など様々な意見交換をし、参加者の方々により伝わりやすいものをと努めています。

高崎での相談会と講演会は、今年は10月28日(日)を予定しています。丸橋全人歯科の施設を解放して行いますので、歯にお悩みある方はもちろん、院内を見学してみたいという方々も大歓迎です。この機会にぜひ当院に足を運んでみてください！

### 無料歯科相談会と歯の講演会

日時：2018年10月28日  
場所：丸橋全人歯科(高崎市栄町21-1)

## 編集後記

先日、東京での講演会参加者の方から声をかけていただきました。毎年行われる講演会を楽しみにしている様子で、今回も一日、講演会を熱心に聞いて帰られたようです。今後も毎日の診療や日常の中から得られる事実を観察しながら、健康に関する文献等と照らし合わせ、来場される方々が健康な日々を送るために少しでも参考になるお話ができるよう、研究を積みみたいと考えています。

患者さんの手記にあるように、一本の歯だけを見て正確に治療を行うことも、長く持つ治療にはなりません。そして、それが場合によっては体調不良を引き起こし毎日健康に過ごしてゆくことも困難になってしまっています。歯が私たちの健康に深くかかわっていることはまだまだ認知度が低い状況です。我々の技術の向上はもちろんです。歯が健康に大きな影響を及ぼしているという事実が少しでも広がってゆくように活動を続けてゆきたいと思えます。(辻本 志)

## 良い歯の会にご参加ください

良い歯の会では、身心ともに健康であるために、正しい歯科治療を受けることや予防の大切さ、また体が喜ぶ食事を摂ることがいかに大切かをお話ししています。

また、本物食品と市販食品を実際に試食で食べ比べていただき、その違いを実感していただいています。

日時：毎月 第2土曜日 午後1:30 ~ 5:00  
場所：丸橋全人歯科 3F 研修室



テーマ	開催月
環境と人間の生き方を考える	1月 5月 9月
ムシ予防を中心に家族を考える	2月 6月 10月
歯周病と生活習慣病を克服しよう	3月 7月 11月
退化病と闘う	4月 8月 12月

お電話にてご予約下さい。 TEL 027-323-9524

良い歯の会のフェイスブックで次回のご案内、会場の様子などがご覧いただけます。